

学会員の生涯学習や腎専門医取得に際する学習の一環として、日本腎臓学会学会誌では特集号に関連する問題を掲載し、解答と解説は日本腎臓学会のホームページにて公表いたします。

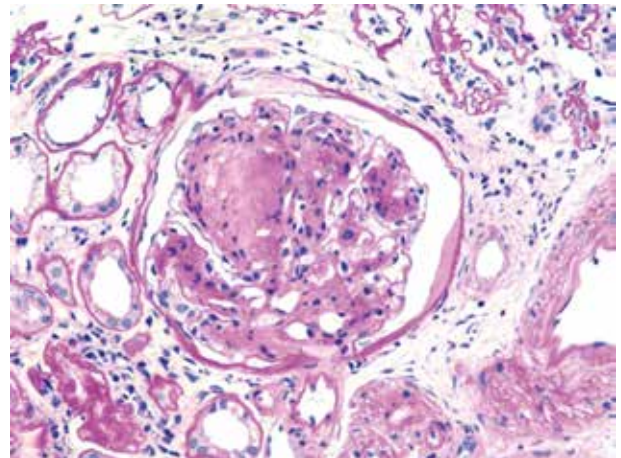
特集 最新の腎臓領域の基礎研究： セルフトレーニング問題

問題1 痛風や糖尿病性腎症との関連が指摘されているインフラマソームはどれか。1つ選べ。

- a. NLRP1
- b. NLRP3
- c. NLRC4
- d. AIM2
- e. NLRP6

問題2 糖尿病の既往のない患者に実施した腎生検で以下の糸球体病変がみられた。鑑別診断に有用でないのはどれか。1つ選べ。

- a. 蛋白尿量
- b. 喫煙歴
- c. 蛍光抗体法
- d. 電子顕微鏡所見
- e. 尿中ベンスジョーンズ蛋白



問題3 C3 腎症について最も適切と思われる組み合わせはどれか。

- 1) 低 C3 血症と低 C4 血症を伴うことが一般的である。
 - 2) 腎病理は膜性増殖性糸球体腎炎像を示す。
 - 3) 補体制御因子の遺伝子異常を伴うことがある。
 - 4) 診断は腎生検蛍光抗体法所見(IF)が現時点では最も重要である。
 - 5) エクリツマブは治療の第一選択に投与される。
- a(1.2) b(1.5) c(2.3) d(3.4) e(4.5)

問題4 以下の文章のうち、正しい組み合わせはどれか。

- 1) SGLT2 阻害薬を服用すると空腹時の血中ケトン体濃度が上昇する。
 - 2) SGLT2 阻害薬はその血糖降下作用のために心血管疾患関連死を抑制する。
 - 3) 糖尿病性腎症ではミトコンドリアの形態は分裂(fission)から融合(fusion)に傾く。
 - 4) マイクロ RNA(miRNA)は通常一つの標的遺伝子の発現あるいは翻訳を抑制する。
 - 5) ポドサイトや尿細管のオートファジーは糖尿病性腎症において腎保護的に機能する。
- a(1.2) b(1.5) c(2.3) d(3.4) e(4.5)